中国が日本の木材を「爆買い」？ 森林国家の強み活かせるか

2018/08/11 15:30

中国人の印象では、日本とは資源に乏しい国である。ところが近年、中国木材市場の旺盛な需要を受け、日本産木材の輸出が急拡大を続けている。

「今日頭条」「鳳凰財経」などのネットメディアの報道によると、日本はすでに中国の木材市場に一定のポジションを確保しようだ。日本は、知らないところで資源輸出国となっていた。日中それぞれの事情を探ってみよう。

■中国国有林の伐採禁止

中国の森林覆蓋面積は、世界有数の 151 億立方メートルである。しかし覆蓋率は 20.36%（2012 年）と低く、一人当たり森林面積は小さい。木材の品質に特段優れた点もなく、中国は森林国家というには遠い。しかし木材消費では世界二位である。

人民日報の報道によれば、国内の天然林に“大径級”木材資源はほとんど残っていない。一方備蓄や植林はすでに一定の規模に達している。しかし日本とは違い、資源化するにはまだ時間を必要とする。

2015 年 4 月、政府は東北（遼寧省、吉林省、黒竜江省）と内蒙古自治区における重点国有林の商業伐採を禁止した。その後、2017 年には、天然林の伐採は全面禁止となった。さらに環境保護の立場から、“粗放”な経営をしていた大量の木材業者に、営業停止や業務改善命令を課した。これらはダブルパンチとなり、木材原料の不足と、値上がりをもたらした。

こうした理由により、2017 年、中国の木材輸入は合計一億立方メートルを超え、前年比 15.6%も伸びた。需要はますます増加していて、必然的に輸入に頼る他はない。ここに日本商品“爆買い”の新しい局面が現れた。

■森林国家・日本

一方の日本は、森林覆蓋率 67%という森林国家だ。森林蓄積量は 49 億立方メートル。計画的な植林により、全体の 61%は人工林だが、その半分は樹齢 10 年以上である。

農水省の統計によれば、2017 年日本全国の木材輸出額は 326 億円、前年比 37%の大幅増だった。38 年ぶりの高水準である。九州はとくに好調だ。門司税関の統計では、九州経済圏の木材輸出は 116 億円、前年比 70%に達し、史上最高を記録した。九州地区の木材輸出は、2012～2017 年の 5 年間に 7 倍となった。

さらに 2018 年の第二四半期、日本企業の木材と木材製品の輸出は 465 億円となり、21 世紀以降の四半期では、最高を記録している。

■杉材の対中輸出激増のワケ

この輸出活況を支えているのは、紛れもなく中国である。2017 年、日本木材輸出の 40%は中国市場向けだった。そして 2018 年 1～4 月のシェアは、なんと 70%まで上昇しているのだ。

2017 年、九州経済圏が輸出した原木のうち 80%は杉材だった。杉は北半球の温帯に幅広く分布し、家具製作におけるコストパフォーマンスは高い。

しかし日本杉の香りは刺激的で、色差は大きく、節も多いなどの難点から、これまで中国では、梱包用の箱やお盆などの小型用途が中心だった。また中国の建築法規「木結構設計規範」は、日本杉の柱材としての使用を許可していなかった。これは改正されて、2018 年 8 月からは使用できるようになる。

© 中国, 輸出, 木材（画像=Sean Pavone / Shutterstock.com）

日本木材輸出振興協会は、高所得の中国沿海部では、日本風情の木造建築が増えつつある、と分析している。内装用資材としての木材利用も増えている。

日本の杉材は、中国の旺盛な需要に応えられるのだろうか。杉の成長には 20 年前後かかる。日本は第二次大戦以降、計画的に造林し、その中で杉の比重は 44%もある。その上、成熟林は多い。供給力は十分にありそうだ。

■新しい輸出商品に育つ

筆者は2000年代、毎年内蒙古自治区を訪れていた。そのころ禿山に、さかんに植林を行っていた。最初は、植林した組織、例えば、人民解放軍〇〇部隊、などの立て看板が誇らしく輝いていた。

しかしその看板はすぐに傷み、樹木は荒れてきた。中国人に限らず大陸の人間とって、自然は制圧するものであり、自然と共生する、という思想は薄いようだ。長期戦略より、現在の収益を優先させる。計画的な造林は困難を伴う。

日本人は緻密な計画を、着実に遂行していく。安定的な供給を望むなら、最高のパートナーだろう。このウインウインの関係は当面続きそうだ。（高野悠介、中国貿易コンサルタント）

ZUU online